

WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらばと

2016.1

No.381

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



第39回日本野鳥の会関東ブロック協議会を開催



● はじめに

10月31日(土)～11月1日(日)の2日間、川越市内のホテル「えすぽわーる伊佐沼」で、当会担当の第39回関東ブロック協議会を開催しました(上写真・石塚敬二郎撮影)。

関東ブロック協議会とは、関東地区の日本野鳥の会の支部・連携団体が順番に担当して、情報・意見交換、交流親睦を主な目的に集まるもの。構成メンバーは、日本野鳥の会群馬、千葉県、神奈川支部、茨城県、栃木、吾妻、埼玉、奥多摩支部、東京の9団体。

10月31日(土)午後、本部6名、埼玉16名を含め、合計50名が集まり、各団体の近況報告、「若い会員を獲得するには(茨城)」「ホームページの運営(埼玉)」「リーダーの資質向上(埼玉)」をテーマに意見・情報交換、「東京五輪カヌー競技場問題(東京)」「多摩川河口干潟羽田連絡道建設の現状(神奈川)」の報告などの熱い時間が続きました。

2日目は、午前中伊佐沼で探鳥会をして、32種を観察。11時ごろ解散しました。

次回は奥多摩支部の担当になります。

● 各団体の近況報告

熱い時間は、やはり各団体の近況報告と提案議題の協議の時です。その中から、編集子が参考にしたい、あるいは見習いたいとメモしたことを発表順に報告します(…以下は感想)。埼玉は省略です。

【千葉県】

「2014年4月から2015年10月までのおためし入会者35人のうち正式入会者が10名」…レベルの高い好成績といえるのではないか。

【奥多摩】

「<たまりゅう>の活動：多摩川流域を渓

流、上流、中流、下流、河口に分け、神奈川支部と協働で探鳥会を開催…行政のくくりではなく、河川の流域で鳥相をとらえる視点。荒川だって可能ではないか。

「タカの渡り観察会：梅の公園(青梅市)では天覧山、加地丘陵南側、入間市の茶畑から飛来、羽村市では狭山丘陵、六道山から飛来しているようだ」…埼玉県で行っている同調査にも、大きな示唆を与えるものである。

【東京】

「葛西臨海公園オリンピックカヌー競技場の変更については、東京都との話し合いを決裂させないことを第一に心がけ、スポーツと自然、両方が成り立つような代案を共に考えようではないか」というスタンスで臨んだことがよかつたのではないか」…この姿勢・手法を見習っていきたい。

【群馬】

「活動の“見える化”」…2m弱のぼり旗を作成、イベント活動でもひろく活用している。製作費は内部の協力で1本当たり3000円程度で作成とのこと。会場で注目を集めていた。

【神奈川支部】

「鳥類目録：5年に1度発行している神奈川県内での観察記録」…野鳥の生態がよくわかる実にユニークな鳥類目録。

「主な退会理由」…“高齢による身辺整理が多い”との発表に一瞬の静寂。

「たまりゅう」…右ページ黒田氏の感想文も参照。

【茨城県】

「県内の野鳥に関する十大(重大)ニュース」の紹介…その年がどういう年であったの

かがすぐに想起できる。これは『しらこばと』にも取り入れられそうだ。

【栃木】

「リーダー研修会の開催」…今後は年1回の開催を目指しているとのこと。

「地元の大学サークルとの連携」…盛んになれば若い人の入会も増えるだろう。

【吾妻】

「特徴ある探鳥会」…早朝5時集合の探鳥会。四万温泉の来客に温泉組合と協賛で観察指導を行う。来年度は50周年記念行事を行う。会員数120名の底力に驚く。

● 提案議題の協議

「若い会員を獲得するには？」（提案：茨城県）

・東京からプロジェクターを使って現在実施しているYoung探鳥会について説明があった。参加者は多いが野鳥の会会員増加にはまだまだ難しいのが現状の様子である。しかし、きめ細かな運営の工夫がされており、懸命な努力と相当な覚悟をもって取り組んでいることが伝わってきた。

・奥多摩と神奈川支部からは、むしろ40代の会員を増やすことが大切ではないかとの意見が出た。40代の会員が増えれば子供や家族をつれてくることで裾野が広がることが期待できる。

「ホームページの運用について（提案：埼玉）」

・HPによる情報公開は会員拡充にはデメリットになる面もあるが、長期的にみて会員増に結びつくような工夫が必要になるだろうと発表された。

● 最後のしめはやはり探鳥会



ホテル間近の伊佐沼で

一参加幹事からみた関東ブロック会議

神奈川支部 黒田清恵

準備に立ち働く埼玉の幹事諸氏。机に配られる資料が山をなし、緊張感も高まったところで何故か可愛らしいパッケージの銘菓「彩果の〇石」登場。ブロック会議ってお硬い会議だったのでは？との私の疑問に応えるかのように、海老原代表の「本日はハロウィンということで悪戯される前にお菓子を配る」とのチャーミングなご挨拶で開会となった。

各会による活動報告が継ぐ中、当神奈川支部からは、この冬奥多摩支部と協働開催となったくたまりゅう（多摩川流域探鳥会）>を紹介。支部の垣根を超えた企画が大きく評価されたのは望外の嬉しさも、埼玉と唯一県境を共有しない神奈川支部が今後取り残されないように心がけねばとの課題も残った。各報告には共通の課題あり独特の問題ありだが、単なる活動報告に留まらず意見交換を介することで、自分たちの会を客観視することができたことを糧としたい。それも司会の小林副代表の適切な采配とコメントによる点が大きかったのではと改めて感謝。

さて夕食の席ではサンズイにトリの効果もあり会議とは一転、ラフな交流が弾んだ。特に埼玉有種と思しき「オオメジロ」の登場には大変場が和み、席の向かい、あるいは隣り合った人との会話が盛り上がるよいきっかけにもなった。中の人にこの場でお礼を申し上げる。さらに夕食後は場所を変え各自持ち寄った頭のよくなる水を片手に、野鳥を肴に一層歓談が進む。ベテランも新人も所属する会も全く関係なく、思いを共有する仲間として白熱した時間が交わされる。解散宣言が発令されたのは月が替わり2時間も過ぎてからのことだった点からも、現場の盛り上がりをお察し願いたい。

翌朝？は睡眠不足もモノともせず朝風呂を楽しみ、伊佐沼にて探鳥。珍しく姿をじっくり見られたタシギや上空ハヤブサの登場に沸き、古代ハスに思いを馳せるひとときとなつた。解散が名残惜しかったのは言うまでもない。会を超えた一体感を実感していたのは私だけではない筈だ。

2015 年 埼玉県内年間鳥見ランキング 参加のご案内

日本野鳥の会埼玉の鳥見ランキングも今回で 14 回目を迎えます。2015 年（1 月 1 日～12 月 31 日）の鳥見総決算として、「探鳥会参加数ランキング」と「観察鳥種数ランキング」に参加してみましょう。詳細は以下の通りです。

1. 埼玉県内観察鳥種数ランキング

- ・埼玉県内での観察であること。県境の河川敷等で双眼鏡や望遠鏡で見える範囲は可とします。
- ・観察鳥種は当会の『埼玉県野鳥チェックリスト』に記載されているものとし、新種に關しては、当会野鳥記録委員会が認定した時点で加算します。
- ・鳥種名、観察月日、観察場所の 3 項目を記載したリストを送ってください。

2. 探鳥会参加回数ランキング

- ・日本野鳥の会埼玉が主催する探鳥会に限ります。リーダー、参加者とも 1 回 1 ポイント（宿泊探鳥会も 1 ポイント）とします。
- ・探鳥会名、実施月日の 2 項目を記載してリストを送ってください。

3. ランキングの参加方法

- ・日本野鳥の会埼玉会員に限ります。良心の元に自己申告してください。
- ・過去 2 回以上それぞれの部門で優勝された方は別格扱いとして、表彰対象からはずさせていただきます。
- ・リストの形式は自由です。お名前とご住所、電話番号を記載して、下記宛に電子メールまたは郵送してください。なお、当会ホームページからリストをダウンロードでき、また参加申込もできます。
- ・締切：2016 年 1 月 31 日（当日消印有効）
- ・郵送先：〒339-0067 さいたま市岩槻区西町 2-1-4 長野誠治宛
- ・E-mail : fukyubu@wbsj-saitama.org

2015 年度 リーダー研修会を開催しました

9 月 6 日（日）にリーダー研修会を北本市の埼玉県自然学習センターで行い、新たに 5 名のリーダー（下写真）が誕生しました。この研修会は 1985 年 5 月に初めて開催されて以来、年に 2 回開催されたこともあるので、今回で 32 回目になる当会にとって重要な行事のひとつです。

9 月末時点で 117 名の方がリーダー（役員を含む）として登録されていて、年間 110 回以上県内を中心に開催される探鳥会で活躍していただいている。リーダー研修会は新たなリーダーを養成するだけでなく、ベテランリーダーが基本事項を再確認して心機一転を図る場にもなっています。今年度の参加者は 32 名、昨年度は 51 名でした。

当会のようにリーダー研修会を組織だって開催している例は他支部でもほとんど見られず、ここ数年は財団本部や他支部からの見学の申し込みが相次いでいます。

研修会は、①リーダーの心構え、②ベテランリーダーも交えての実習や意見交換、③参加者全員による自己紹介、④当会の現状説明と各部紹介、の 4 つのパートで構成されています。

中核となる②について今年度は、新リーダーの実地研修として「模擬探鳥会」を行い、終了後にベテランリーダーからたくさんの有益なアドバイスが出されました。昨年度は「初めての探鳥会参加者への対応方法」についてグループ・ディスカッションを行い、それ以前には「急救法」や「探鳥会におけるリスク管理」などもテーマとして取り上げました。



白樺峠・乗鞍探鳥会

藤澤洋子（志木市）

白樺峠のタカの渡りに通い始めて10回を超えたが、まだ大当たりになつたことがない。今年こそはと願つての参加でした。

峠の駐車場に遅過ぎに到着。下山者にタカの様子をうかがうと「さっぱり飛んでいない」。これは困った。頂上に着くと「良い時に来た。いま飛び始めたよ」の声。「ありがたい」。

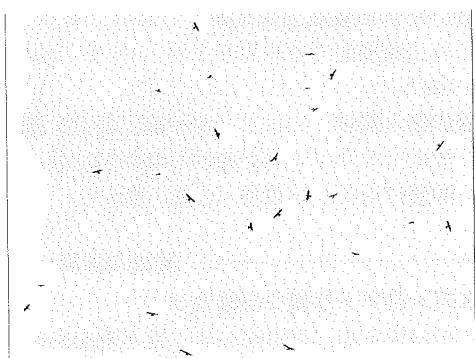
少し遠いが右側にタカ柱が1本、2本と上がり、サシバの中にハチクマとツミが入っていた。「凄い」の歓声が上がる。その後も次から次に上がる。しかし遙か彼方、鉢盛山上空を通り過ぎて行く。スコープに入れての観察である。ハチクマの濃淡や雌雄の識別は難しい距離だ。

記録によると午後に2,800羽の数は大当たりだった。

その夜はいつもの宿で美味しいマツタケの入ったキノコ鍋や珍味の熊の角煮を地酒と共に堪能し、鳥談義でとても盛り上がった。

早朝探鳥会は、カワガラスやキセキレイ、ミソサザイの声を聞きながら橋を渡るとオオルリの声！

朝食後、乗鞍に向かう途中でタカ柱が2本上がり、全員で確認できたのは幸運だった。頂上までの素晴らしい紅葉を見ながら疊平に到着。大黒岳までの道中、鶴ヶ池でカヤクグリが飛び、止まったところをほぼ全員で確認。山頂では、2羽のイワヒバリをスコープで観察。ホシガラスが何度も飛び、岩でハイマツの実を食べていた様子も観察できた。ライチョウは次回のお楽しみになった。



白樺峠のタカ柱（藤原寛治）

新年のご挨拶って、こんな大きなスペースを用意されても、困ったな。え？ 顔写真？ そんなの載せたら、会員が減るに決まっているじゃないか！ どうしても？ じゃあ、うんと小さくね。



それにしても、昨年は9年ぶりの関東ブロック協議会を埼玉で開催したのが、一番大きかったかな。小林みどり副代表が実行委員会委員長として、他の役員さんたちも様々な仕事を手際よく分担してやってくれました。詳しくは特集のページをご覧ください。

そのほかにも、例年通り探鳥会は年間110回を超える計画が続くし、毎月発行する『しらこばと』の編集は、なんとか発送してほつとしている。もう次の号の編集会議が目前という有様。調査研究活動、事業部活動も、みんな会員の皆さんのおかげで、続けることができています。感謝感激です。

ということで、あらためて、「明けましておめでとうございます。今年もどうかお力添えをお願いします。日本野鳥の会埼玉を舞台に、鳥友を増やし、皆様がそれぞれの活躍の場を広げてくださることを、願っています。」

平成28年元旦

日本野鳥の会埼玉代表 海老原美夫

一同、礼！

忠野鳥美（鴻巣市）

何か「鳥」を待っているのだろう。バーダーとおぼしき人たちがカメラを構えて、ひとつの場所に視線を集中している。

ん、「鳥」が出た。その瞬間、巻き起こるシャッター音の嵐。

やがて「鳥」は物陰に去り、あたりは静寂を取り戻す。どのカメラマン氏も、すばらしい被写体となってくれた「鳥」のいた方向に向いたまま、一斉に頭(こうべ)を深く垂れ、「鳥」に感謝の意を表している…。

のではなくて、皆さん同様のしぐさで、カメラの液晶画面の確認に余念がない。



春日部市倉常 ◇8月31日、セイタカシギ1羽、アオアシシギ2羽、イソシギ2羽、クサシギ1羽、コチドリ10羽。他の水田でアカエリヒレアシシギ1羽、トウネン7羽、クサシギ3羽、タカブシギ2羽、イソシギ2羽、コチドリ数十羽。9月7日、オオタカ若鳥がしつこくチュウサギを狙って追い掛け回すも失敗。この騒動でセイタカシギ1羽、アオアシシギ2羽、イソシギ2羽が逃げて行った（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区片柳1丁目 ◇9月6日朝、カッコウの仲間が運転中の車窓より数メートルの高さを飛翔して行った（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区膝子 ◇9月7日、休耕田の水面から飛び去るクサシギ1羽及びシギ不明種1羽（鈴木紀雄）。

蓮田市笹山 ◇9月8日、畔道や田んぼでジシギ類計8羽。チュウジシギと識別した個体3羽、タシギかチュウジシギか不明の個体2羽、飛んでしまい識別できなかつた個体3羽。チョウゲンボウ♂1羽♀1羽が舞う（鈴木紀雄）。

春日部市梅田 ◇9月25日午前8時、隣マンションの駐車場で、オオタカ若鳥が何かに覆い被さっていた。周囲に白い羽根が散らばり、一瞬、何？ 獲物はケリ？ 1時間くらい前のけたたましいカラスの鳴き声は、これだった。警戒怠らず、30分程で古利根川を越えて北へ。「生殺与奪」初めての経験で一日中精神不安定。翌朝、亡骸はハシボソガラス2羽が持ち去ってくれホッとしました（富田美邦）。

秩父市大滝げんきプラザ周辺 ◇9月27日夕刻、エゾビタキ2羽、ヤマガラ、シジュウカラなどのカラ類。山からフクロウの声が響く（鈴木紀雄）。

さいたま市中央区与野公園 ◇9月28日、週の始まり、けだるく歩いていると「キー、キッ、キッ…」ツミの声！ 立派な♂成鳥が目の前の枝に胸を張ってとまっていた。するとカラスを追い回すもう1羽が…♀の

ようだ。仕事に遅れたのは言うまでもありません（石塚敬二郎）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇10月2日午前6時頃、ヒヨドリ50羽土が飛び回っていた。渡って来たようだ。今季の初認。（長嶋宏之）。

鴻巣市小谷 ◇9月来の雨の名残で、荒川河川敷に大きく水たまりが広がっている。10月4日、コアオアシシギ9羽、タカブシギ2羽、イソシギ1羽、イカルチドリ5羽。アシの小さな茂みからかすかに聞こえるオオヨンキリの声。まだいるの？ ハヤブサがハシボソガラスに追われて飛び去る。オオバンがちらほら。カモ類多数のなかに、今季初認となるハジロカツブリ1羽（榎本秀和）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇10月3日、カケスとアカゲラの声。サシバ1羽が上空高く飛翔。エゾビタキ1羽、コサメビタキ1羽、キビタキ♀2羽。ガビチョウが何かをくわえて藪の中をゴソゴソ。10月4日、カワセミ♂1羽が用水のフェンスで休んでいた。エゾビタキ3羽、コサメビタキ1羽。キビタキの声が数ヵ所で聞こえた。シジュウカラ、エナガ、コゲラの混群約30羽が警戒音を発す。初めわからなかつたが、5分程して、上空でホバリングするチョウゲンボウに気付く。やがて、高度を上げ、ふと気づくと3羽になっていた。2羽は大きいのでハヤブサか？ 小さい方が大きい方に突っかかりつつ、どんどん高度を上げ、やがて見えなくなつた。他にハイタカ？ 飛翔、すぐに見えなくなつた。名残のツバメ1羽（鈴木紀雄）。

さいたま市桜区上大久保 ◇10月3日夕方、作田調整池でカルガモ7羽、コガモ7羽（大塚純子）。

狭山市入間川 ◇10月4日午前、新富士見橋付近でミサゴ1羽が旋回しながら上昇。広瀬橋付近でバン若鳥（吉田 勉）。

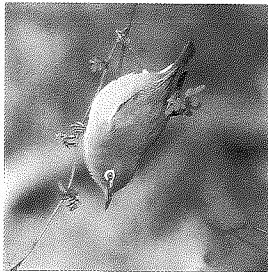
表紙の写真

スズメ目アトリ科ウソ属ウソ

2014年1月、見沼田んぼ。雪と氷をものともせずに水浴び。 蟹瀬武男（さいたま市）



行事案内



メジロ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時刻に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

(4月からは、中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円に変更になります。)

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持つていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意をお願いします。

さいたま市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：1月4日（月）

集合：午前10時10分、さぎ山記念公園入口。

交通：大宮駅東口⑦番バス乗り場9:28発「浦和学院高校」行き、または東浦和駅③番バス乗り場9:37発「さいたま東営業所」行きで、「さぎ山記念公園」下車。駐車場はありますが、もちろん飲酒運転厳禁です。

担当：海老原、浅見(徹)、宇野澤、楠見、工藤、小林(み)、新部

見どころ：新年の挨拶を交わして初探鳥会。昼夜ごろからはいつもの野外懇親会を予定。酒類、食べ物ご持参歓迎。敷物も各自ご用意ください。飲みすぎに注意しながら、短い時間を楽しく過ごしましょう。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：1月9日（土）

集合：午前 9 時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：JR埼京線武藏浦和駅東口から、②番バス乗り場8:12発下笛目行きで、「彩湖道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：小林(み)、赤堀、石塚(敬)、石塚(真)、今村、大井、新部、野口(修)、藤田

見どころ：11月から毎月開催中です。カイツブリ類は増えているかな。カモは？ 小鳥は？ 月毎の変化を楽しみましょう。

千葉県・ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期日：1月9日（土）

集合：午前10時、ふなばし三番瀬海浜公園バス停留所付近。**注**：今回は、JR船橋駅での受付はしません。

交通：JR武蔵野線南浦和8:14→西船橋にて総武線9:05に乗換え、船橋9:08着。京成バス9:20発船橋海浜公園行きに乗車し、終点下車。**注**：京成バス乗り場は京成船橋駅付近にあります。リーダーがご案内します。

担当：菱沼(一)、佐久間、佐野、杉本、菱沼(洋)、渡邊

見どころ：埼玉では見られないミユビシキ、ミヤコドリ、海ガモなど。時々、思いがけない珍鳥に出会うこともあります。海風は冷たいので寒さ対策を十分に。

熊谷市・大麻生定期探鳥会

期日：1月10日（日）

集合：午前 9 時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷9:09発、または寄居8:50発に乗車。

担当：千島、新井、鵜飼、倉崎、田島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：土手から河川敷へ。シメ、ツグミ、カシラダカ、ジョウビタキの冬鳥たちと猛禽に出会い、野鳥の森でシロハラ、アカハラ、ルリビタキと出会いましょう。

松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期日：1月10日（日）

集合：午前9時、松伏町まつぶし緑の丘公園
管理棟前。

交通：東武伊勢崎線せんげん台駅東口、茨急
バス③番乗り場から松伏町役場行き8:47発
で「まつぶし緑の丘公園」下車。

担当：橋口、植平、榎本（建）、佐藤、佐野、
進士、鈴木（誠）、田邊、野村（修）、野村（弘）、
森下、吉岡

見どころ：池でカモ類、アシ原や周辺の田ん
ぼ、屋敷林で山野の冬鳥を探します。昨年1
月は、ホオアカを含めてホオジロ類5種！

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：1月11日（月・祝）

集合：午前9時15分、アスレチック広場前・
第一駐車場。

交通：東武春日部駅西口、朝日バス③番乗り
場8:41発春日部エミナース行きで、「共栄
大学入口」下車（290円、所要約15分）。西へ
徒歩約7分。

担当：石川、菊川、佐藤、佐野、進士、野村（修）、
野村（弘）、橋口、吉岡、吉安

見どころ：常連のジョウビタキ、アカハラ、
シロハラなどに加えて、田んぼでタヒバリ、
枯草地でカシラダカ、ホオアカなどを期待。

※帰路バス時刻：13:07、14:20（11月現在）。

滑川町・武蔵丘陵森林公园探鳥会

期日：1月11日（月・祝）

集合：午前9時15分、森林公园南口前

交通：東武東上線・森林公园駅北口から立正
大学行きバス9:02発で「滑川中学校」下車。
ひとつ手前の「森林公园南口入口」は通過
してください。「滑川中学校」から歩道橋
を渡るのが最短距離です。

費用：参加費以外に入園料410円（子供80円）、
65歳以上210円（証明書を持参ください）。

担当：藤掛、大坂、岡安、鈴木（秀）、内藤、
中村（豊）、藤澤、松下

見どころ：南口から入園してカラ類を探しな
がら、山田大沼でカモ類を探すコースです。
鳥合わせは中央口の多目的ホールを借りる

予定。お弁当を持参して、野鳥情報交換を。

深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：1月16日（土）

集合：午前9時、JR高崎線深谷駅南口ロータ
リー。

担当：新井、鵜飼、小渕、倉崎、田島
見どころ：2年続けて唐沢川のイソヒヨドリ
で盛り上がりましたが、今年の目玉は何で
しょうか。久し振りにトラツグミが出てく
れたら嬉しいのですが。

久喜市・久喜菖蒲公園探鳥会

期日：1月16日（土）

集合：午前9時15分、久喜菖蒲公園駐車場。
交通：JR宇都宮線白岡駅西口から、朝日バス

8:34発菖蒲仲橋行きで、「除堀（よけばり）」
下車、徒歩約15分。バス停からご案内しま
す。

担当：長嶋、大坂、植平、菊川、佐藤、佐野、
竹山、長野

見どころ：園内で水辺の鳥と林の鳥を探しま
す。昨年は9種類のカモが見られました。
さて今年もあのカモは見られるでしょうか？
トイレは園内4カ所にあります。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：1月17日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東
口、集合後路線バスで現地へ（ご注意：案
内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定で
す）。または午前9時、さいたま市立浦和博
物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：青木、赤堀、浅見（健）、浅見（徹）、石
塚（敬）、楠見、小菅、小林（み）、柴野、須
崎、新部、畠山、増田

見どころ：冬も本番。野ではツグミやジョウ
ビタキ、川ではコガモやマガモなど 基本の
鳥をじっくり観察します。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：1月17日（日）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。

または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線・新越谷7:22→春日部7:36
→南栗橋乗り換え→柳生8:06着。または
JR宇都宮線下り大宮7:03→栗橋7:38着で
東武日光線に乗り換え、柳生8:06着。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン。

担当：佐野、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、
野口(修)、山田

見どころ：昨年はミコアイサの群れやヨシガモ、カワアイサが見られました。今年もカモたちが楽しみです。湖面を渡る風は冷たいので、防寒対策は万全に！

『しらこばと』袋づめの会

とき：1月23日（土）午後3時～4時ころ

会場：会事務局108号室

入間市・さいたま緑の森博物館探鳥会 (要予約)

期日：1月23日（土）

詳細は、12月号をご覧ください。

長瀬町・長瀬探鳥会

期日：1月23日（土）

集合：午前9時30分、秩父鉄道長瀬駅前。

交通：秩父鉄道熊谷8:00→寄居8:28→長瀬。

担当：井上、鵜飼、佐久間、堀口、松下

見どころ：冬鳥本番の時季、静かな河原沿い
を上長瀬方面までゆっくり歩きます。景色
も楽しみましょう。

ご注意：山間部なので防寒対策を忘れずに。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：1月24日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:42発、所沢8:39発
に乗車。

解散：正午ころ、稻荷山公園。

担当：長谷部、石光、久保田、鈴木(秀)、高草木、
中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本
見どころ：定例探鳥会として25年目に入りました。環境が変わり、見られる鳥も少しづつ
変わっています。でも今回もいつも通り

鳥、植物、昆虫と、欲張って楽しみましょう。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：1月24日（日）

集合：午前8時45分 JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。または午前9時、環境学習館前。

担当：玉井、青木、内田、榎本(建)、小林(み)、
田中、長嶋、長野、菱沼(一)、菱沼(洋)、
星野、吉安

見どころ：水辺、アシ原、草原、田畠、屋敷林等の多様な環境にいる冬の鳥たちを、農村風景も併せてのんびりと楽しみましょう。

ご注意：車の方は「緑のトラスト保全第11号地黒浜沼駐車場」を利用してください(環境学習館まで徒歩1分)。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：1月26日（火）平日

集合：午前9時25分、森林公園南入口前

交通：東武東上線・森林公園駅北口から立正大学行きバス9:05発で「滑川中学校」下車。
ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。

費用：参加費以外に入園料410円(子供80円)、
65歳以上210円(証明書を持参ください)。

担当：中村(豊)、大坂、小林(み)、鈴木(秀)、藤澤
見どころ：南口から山田大沼まで散策します。

鳥合わせのあと、希望される方には引き続き南口までご案内します。その場合には昼食をお忘れなく！

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：1月28日（木）平日

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。

交通：羽生市福祉バス手子林・三田ヶ谷ルート(ムジナもん号)で東武伊勢崎線羽生駅東口8:05発、南羽生駅8:22発、「キャッセ羽生・水郷公園」下車。

共催：羽生水郷公園管理事務所

担当：相原(修)、相原(友)、新井、植平、竹山、飛田、中川、茂木

見どころ：平日の静かな池ではヨシガモなど、
アシ原ではオオジュリン、ベニマシコなどの小鳥たち。日光連山をバックに猛禽も。

ご注意：帰りのバスの便は14:51発です。



行事報告

6月14日（日） 坂戸市 高麗川

参加：17名 天気：曇

コジュケイ キジ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ホトトギス イカルチドリ コチドリ カワセミ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ オオヨシキリ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ（27種）（番外：ドバト、ガビチョウ） この時季としては快適な気候となつた。多和目橋上流部の河川敷は再び改修工事が始まっていたが、カイツブリ、カワセミ、イカルチドリなどを見ることができた。ガビチョウは相変わらずにぎやかで、遠くで鳴くホトトギスの声をかき消してしまうほどであった。鳥合わせの河原ではコチドリが鳴きながら飛びまわり、ちょっとの間、彼らの邪魔をしてしまったようだ。ごめんなさい。白いサギが見られなかつたのは、1986年以降75回実施された高麗川探鳥会では2000年に続き2度目である。 （山口芳邦）

6月18日（木） 羽生市 羽生水郷公園

参加：31名 天気：曇

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ コチドリ コアジサシ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ ムクドリ スズメ カワラヒワ ホオジロ（22種）（番外：ドバト） 雨は開始時に一時降つたが直ぐやみ、暑い日となる。ヒバリが上空を飛び、芝生でもエサを探している。ツバメ幼鳥は芝の上でじっと座り、親がエサを運んでくるのを待つてゐる。コアジサシの親のそばを走りまわる雛の姿に心がなごみ、その傍では交尾するコチドリも。樹上で囀るホオジロの方言（？）の話も出たりして、なごやかでした。（相原修一）

6月20日（土） 『しらこばと』袋づめの会

ボランティア：11名

相原修一、宇野澤晃、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、吉原早苗、吉原俊雄

6月21日（日） さいたま市 三室地区

参加：47名 天気：曇

キジ カルガモ キジバト カワウ コチドリ オオタカ チョウゲンボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ（20種）（番外：ドバト） 雷雨も有りの天気予報。コース短縮の設定でスタート。元気なヒバリや幼鳥たち（モズ、スズメ、ムクドリ、ツバメ）を観察。林のケヤキにとまるオオタカをスコープで堪能。コース終盤、開けた畑で人目を気にしないキジがホロ打ちを2度3度と披露してくれた。約2km、2時間の鳥見を楽しんだ。

（柴野耕一郎）

7月5日（日） 群馬県板倉町 渡良瀬遊水地

雨のため中止。

（佐野和宏）

7月12日（日） 熊谷市 大麻生

参加：30名 天気：快晴

コジュケイ キジバト カルガモ キジバト ホトトギス トビ ツミ サシバ ノスリ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ スズメ カワラヒワ ホオジロ（23種）（番外：ガビチョウ） 連日の雨もよいが前日から一転、35℃に迫る炎暑となる。朝から気流が立つものか、いきなり夏空の猛禽ショー。巣立ち雛や昆虫の観察もこの季節ならではだが、「マムシ注意報」も忘れてはならない。車に轢かれてはいたが、この日もやはり出た！ 最後にいわゆる「高原モズ」♂を見つけて、こういうのもいるんだね、と鳥合わせ。（榎本秀和）

7月18日（土） 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：38名 天気：雨

カイツブリ キジバト アオサギ ホトトギス オオタカ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ キビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ

ホオジロ（21種）（番外：ガビチョウ） 朝から小雨模様であったが、参加者の熱意に押されて開始。ウグイス、シジュウカラ、メジロなどの声が聞こえてくるが、この時季の森は野鳥の姿を見ることは非常に難しい。ようやく高い木のてっぺんで鳴くホオジロを見る事ができた。すると「オオムラサキ！」の声。スコープにとらえたのは♀であった。さらに近くを飛ぶ別の個体にも出会えた。ニイニイゼミの声のシャワーを浴びながら、ヤマユリや咲き出したばかりのウバユリの見られる道を歩いた。運動広場まで来ると再び葉にとまるオオムラサキ。その下の芝生にはこちらを観察している様子の野ウサギがいた。降り続く雨の中、ここで鳥合わせにした。
（中村豊己）

**7月18日（土）『しらこばと』袋づめの会
ボランティア：10名**

榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、増尾隆、松村禎夫、吉原早苗、吉原俊雄

**7月19日（日）さいたま市 三室地区
参加：58名 天気：晴**

キジ カルガモ キジバト カワウ ダイサギ
オオタカ ハシボソガラス ハシブトガラス シ
ジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ メジロ
ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ
ホオジロ（18種）（番外：ドバト） 本日、梅雨明け宣言！ 気温も急上昇！ それにも関わらずたくさんの参加者が来てくれた。コースは短めに設定し、ゆっくり歩く。鳥の種類は少ないが、この時季ならではの巣立ち雛を堪能。見沼代用水沿いは桜並木が日陰を作ってくれており、暑さも和らいだ。後半は間近でオオタカ成鳥も見る事が出来、7月の鳥見としては満足。
（青木正俊）

**7月26日（日）狭山市 入間川
参加：30名 天気：晴**

カルガモ キジバト カワウ ササゴイ アオサギ
ヒメアマツバメ イカルチドリ コチドリ
ツミ カワセミ オナガ ハシボソガラス ハシ
ブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ
ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ
ホオジロ（21種）（番外：ドバト） 朝のあいさつで、猛暑のため途中で切り上げる事もあると

前置きをしてスタート。始まってすぐにツミ♂が現れた。こちらを向いて動かないため、みんなで十分に観察できた。7月、唯一の見どころとして頼りにしているササゴイも2～3羽いる。カワセミ、コチドリ、イカルチドリも見られるし、今日は調子がいい。しかし、日蔭から日蔭へ移動しながらの観察も、終点までは厳しいと判断して早めに終了。

（長谷部謙二）

8月2日（日）北本市 石戸宿

参加：36名 天気：晴

カルガモ カイツブリ キジバト ゴイサギ ツミ
オオタカ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス
メジロ ムクドリ スズメ カワラヒワ（17種）
スタート直後、正門の橋の所で高い木の梢付近を舞うチョウトンボを全員で楽しんだ。木道ではキアゲハ。エドヒガンザクラの先では、後方の人たちはオオタカとツミ、先頭はオオシオカラトンボのオス、ハッチョウトンボのメス。暑いので木陰毎に休憩して水を補給。木の葉の動きから小鳥がいるのが分かるが、姿を捉えられず、声でシジュウカラ、メジロ、コゲラと確認。高尾の池で、カルガモ、カイツブリ、ゴイサギの幼鳥の姿を確認して終了。桜堤に行かないでコースを短縮し、学習センターに戻った。
（吉原俊雄）

8月9日（日）熊谷市 大麻生

参加：26名 天気：晴

コジュケイ キジバト オオタカ ハシボソガラス
ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ
メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ（12種）
（番外：ガビチョウ） 8月の探鳥会はいつも気候に振り回されるが、今回も予報では最高気温34度。覚悟して出発、土手上に鳥の姿はなく陽射しが強まるだけ。木陰を利用しての観察会になり、遠くから少しだけ鳥の声が聞こえる程度であった。ツバメが数羽飛び交い、途中で木の枝にオオタカを観てからは、河原にて汗を流した後に涼をとつて終了。
（茂木幸蔵）

8月15日（土）『しらこばと』袋づめの会

ボランティア：8名

宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、藤掛保司、増尾隆



連絡帳

● 野鳥の会全国大会で、関東ブロック協議会の概況報告

10月31日（土）～11月1日（日）川越市内で開催した当会担当の第39回関東ブロック協議会につき、11月7日（土）～8日（日）に千葉市内で開催された日本野鳥の会全国大会で、当会代表が映像を使用して概況報告をしました。

● さいたま市緑区環境講演会の予定

当会も後援して毎年開催される講演会、今年は2月7日（日）午後、当会会員が「世界につながる見沼田んぼの野鳥たち（仮題）」と題して講演する予定です。

入場無料、事前申し込み制。申し込み方法などは次号でお知らせします。

● 神奈川支部研究年報第22集発行

「BINOS」第22集が2015年10月に発行されました。神奈川支部の研究と活動の報告誌で、会員の投稿を中心に編集されています。アマチュアならではの視点、地域的に貴重な観察記録など、神奈川県内にとどまらず地域自然誌を物語る重要な論文が掲載されています。1,200円（送料300円）。詳しくは、神奈川支部のホームページをご覧ください。

● 会員の普及活動

さいたま市のPR動画の一部として、見沼田んぼの野鳥たちを紹介するコーナーへの協力依頼を受け、11月17日（火）、見沼自然公園と芝川第一調節池での収録に、海老原美夫、海老原教子、石塚敬二郎、小林みどり、長嶋宏之、山部直喜が協力しました。

11月29日（日）、坂戸市環境学館いづみ主

催バードウォッキングウォーキング講座を、同館から高麗川沿いに入西こはるが池まで往復するコースで実施。坂口稔と増尾隆が指導しました。参加者30名、観察種24種。

● 会員数は

12月1日現在1,751人。

活動と予定

● 10～11月の活動

10月27日（火）武藏丘陵森林公园地域懇談会
里山に関する分科会に出席（藤掛保司）。

11月14日（土）『しらこばと』12月号校正
(海老原教子、海老原美夫、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。

11月15日（日）役員会（司会：茂木幸蔵、各部の報告・見沼田んぼクリーン大作戦の日程変更・その他）。

11月24日（火）『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこばと』12月号を郵便局から発送（事務局）。

● 1月の予定

1月9日（土）編集部会。普及部会。

1月16日（土）2月号校正（午後4時から）。

1月17日（日）役員会（午後4時から）。

1月23日（土）袋づめの会（午後3時から）。

編集後記

荒川にハクガンという話を聞いたが、重い腰が上がらなかった。そこに、Sホールでパイオルガン無料コンサートの情報。一石二鳥を目指して出かけた。初めて生で聴くパイオルガンの音は、まあ想定内ではあった。次の目的地に到着すると、あれれ!? 通りがかりの人から前日までは居たと聞かされた。別のトリに浮気したのがまずかった？

（森本）

しらこばと 2016年1月号（第381号）

定価 200円（会員の購読料は会費に含まれます）

発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉（〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号）TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル

（公財）日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。

印刷 関東図書株式会社